

大田区地域自立支援協議会だより

編集・発行 大田区地域自立支援協議会
事務局 大田区福祉部障害福祉課計画担当
電話 03 (5744) 1700
ファックス 03 (5744) 1555

第1号 平成24年3月

「大田区地域自立支援協議会」は、障害者及び障害児の地域における自立した生活を支援するため、相談支援事業をはじめ、地域の障害福祉の課題について具体的な検討を行うことを目的として区が設置しています。協議会委員は、障がいのある方や障害福祉に係わる様々な分野の関係者で構成しています。

大田区地域自立支援協議会だより創刊によせて

会長 志村 陽子

障害者の地域生活を支援するためには、個々のニーズと様々な地域の社会資源のサービスを適切に結びつけて調整を図ることが求められます。また、総合的かつ継続的なサービスの供給確保、社会資源の改善や開発も重要であり、そのための中核的な役割を担うべく大田区地域自立支援協議会（以下、協議会）が平成20年に設置されました。様々な立場から参加した委員たちは当初、「自分たちは何をするんだ？」と戸惑いながらの出発でした。自主的な検討会も含め、協議会のスタンスを確認し合い「第2期大田区障害福祉計画」への提言をまとめました。

専門部会も、当初2つから4つに増え、それぞれが毎月テーマに沿った検討を進めています。委員任期が1年ということで、「要求・要望の場ではない」という基本スタンスを何度も確認しながら、毎月の専門部会と年度3回の全体会、その準備のための部会長会→「役員会議」、有志によるあり方検討会→「運営会議」と、協議会をより良くするために、努力を重ねてきました。課題ごとに行政所管部署や障害福祉以外の関係者のみなさんにご参加いただいておりますが、当初緊張の面持ちなのが、回を重ねるごとに協議会の雰囲気になじんで下さる様子が何とも嬉しいことです。また、「(仮称)障がい者総合サポートセンター基本計画」や「第3期大田区障害福祉計画」の策定にあたり、協議会としての提言もさせてもらいました。そして全てを守り支えてくれている事務局のみなさんの努力には、本当に頭が下がります。

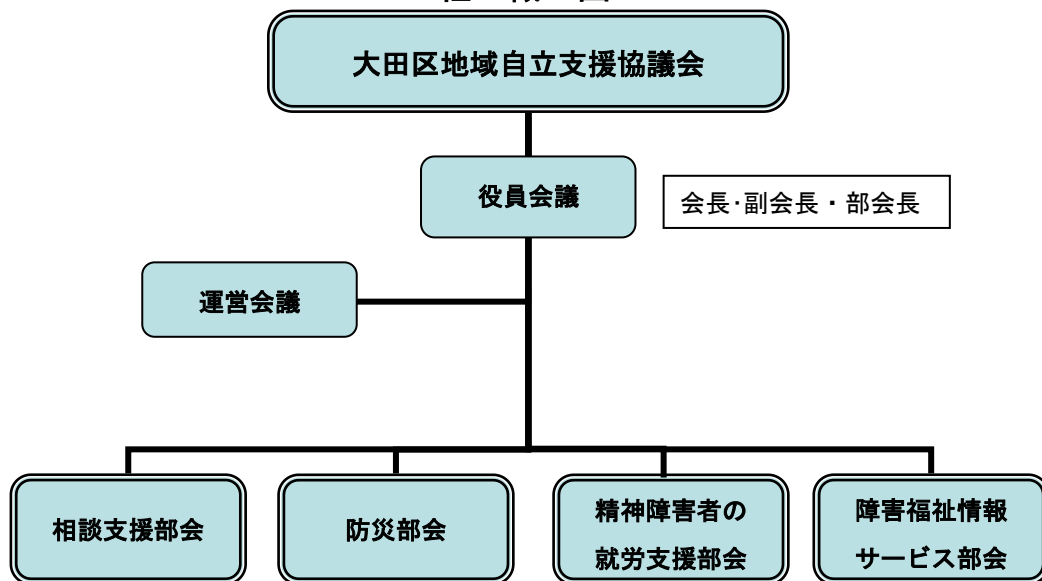
今年度は特に、公開の場である全体会の運営方法に工夫を重ね、また、広く皆様に協議会の取り組みを伝える情報発信の手立てとして、区HP掲載方法や事項の精査と、この「大田区自立支援協議会だより」の発行を決定しました。

大田区地域自立支援協議会は、ここまで4年間の取り組みをもとに、いよいよ広く連携を図り、その存在を区民の皆様に伝え、障害者の地域生活に具体的に役立つ存在になるための正念場を迎えるところと考えます。ここからがまた新しいスタートです。どうぞよろしくをお願いします。

～ 大田区地域自立支援協議会 これまでのあゆみ ～

- ◆平成20年5月 大田区地域自立支援協議会設置要綱の制定
7月 大田区地域自立支援協議会 発足
年間6回開催 主に、第2期大田区障害福祉計画について検討
- ◆平成21年度 相談支援部会・障害福祉サービス部会の設置。
専門部会に、協議会委員以外の参加者をオブザーバーとして積極的に迎え入れた。
全体会を年間4回の開催とし、専門部会での議論を主軸とした運営に。
11月 研修会の実施「もっと知りたいピアカウンセリング」
- ◆平成22年度 相談支援部会・防災部会・精神障害者の就労支援部会・障害福祉情報サービス部会の設置
専門部会のみ委員の設置。全体会を年間3回の開催とし、専門部会の活動報告について聞き手にとってわかりやすいよう、パワーポイントを使用。
12月 「あり方検討会」の開催。年間2回開催。
- 平成23年 1月 研修会の実施「『相談』は地域の『魂』」
2月 研修会の実施「支援者のための精神障害者雇用の実際」
- ◆平成23年度 相談支援部会・防災部会・精神障害者の就労支援部会・障害福祉情報サービス部会の継続
設置。「あり方検討会」を「運営会議」として年4回開催。
- 平成24年2月 研修会の実施「企業向けセミナー『就労は障がいを軽減する』」
2月 研修会の実施「巨大地震に備えるー東日本大震災を踏まえてー」
3月 「大田区地域自立支援協議会だより」発行

組 織 図



▼委員構成▼

★協議会委員

次に掲げる区分のうちから、区長が委嘱する委員22人以内で構成。

- (1) 地域
- (2) 福祉
- (3) 保健医療
- (4) 学識経験

★専門部会のみ委員

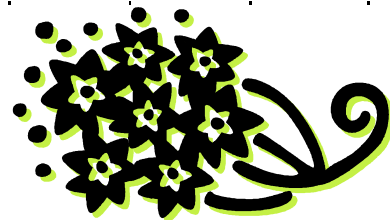
大田区地域自立支援協議会設置要綱第7条第2項に基づき、会長が指名。23年度：21人

大田区地域自立支援協議会 ホームページ <http://www.city.ota.tokyo.jp/>

大田区役所HPトップページ⇒福祉⇒障害者の支援(難病の方への支援も含む)

⇒大田区地域自立支援協議会

専門部会活動紹介



相談支援部会

相談支援専門部会では、具体的な個別支援会議を実施し、「相談支援のあり方」について共通認識を持つことをすすめています。今年度は「個別支援会議を大田区全体で共有し広めて行く」ための仕組みや流れをどう作っていくかについても検討し、「大田区地域自立支援協議会における個別支援会議の手引き」を作成しました。

私たちは、個別支援会議の実施を積み重ねることで、①障害のある人の実情と課題の理解②サービスの評価③支援者への支援の必要性の理解④事務局機能の重大性の理解、ができたという成果を感じています。実施される個別支援会議を部会メンバーがそれぞれ抱える事例と追体験させながら考えることで、地域全体の支援のレベルアップにつながっていくのだと感じています。

防災部会

防災部会は、障害者の立場に立った防災について検討してきました。障害当事者、家族、施設等支援者など、様々な立場のメンバーの他に、行政からも防災課、障害福祉課の施設担当、また区内4地域各消防署の地域防災担当者も参加しています。「災害時要援護者名簿の活用」「福祉避難所の充実」と、課題は多くありますが、まずは「自助」の力を育むのに役立つツールとして考案した「たすけてねカード」を、より実用的に皆様の手に届くよう2年間をかけて作成しました。年度末には、東京消防庁の職員の方を講師にお招きして講演会を行い、大震災の甚大な被害の実態を知り、改めて自分たちは何をすべきか考えました。

また地域との連携にも少しずつ取り組みの糸口が見え始めています。これからは「災害時要援護者」とひとくくりにされない、それぞれ個性的な障害ある人たちの地域生活の有り様を知らせ歩き「共助」の種まきも始めようと考えています。

精神障害者の就労支援部会

2年目を迎えた精神障害者の就労支援部会は、前年度からの課題を継続して①就労支援事例検討の積み重ね、②「今からでも、これからでもできる事」の具体的検討を実施しました。

事例検討は精神障害者、発達障害者、高次脳機能障害者の事例を6事例検討し、部会内での意見を出し合い、共通認識を図りました。

「今からでも、これからでもできること」として、ジョブコーチを中心に、補助金の可能性を探り、近隣地域の実践から、第1号職場適応援助者と、障害者就業・生活支援センターの実際を学びました。

年度末には、「就労は障がいを軽減する！」と主張する当部会主催の研修会を開催し、多くの企業、支援者等の参加を実現しました。

専門部会活動紹介



障害福祉情報サービス部会

私たち障害福祉情報サービス部会では、介護と医療における情報の流通について個々に問題点は何かを洗い出しています。今年度、介護に関しては、専門部会内の委員や全体会の委員（行政・事業所・利用者・家族などがいる）に簡易なアンケートを行い、疑問や問題を洗い出すことを行い、更に課題分析も行いました。医療に関しては、区内の病院など医療施設の障がいのある方に対する対応状況や、制度の情報が利用者及び家族に行き渡っていない現状があります。この点をどう改善していくかなどを検討しました。また、障害福祉情報サービス部会として、専門部会としての立ち位置、そして、情報の取り扱いについて、常に課題を挙げながら検討を行っています。



研修会風景



平成 24 年 2 月 20 日(月)

防災部会主催研修会「巨大地震に備える

—東日本大震災を踏まえて—

= 編集後記 =

大田区地域自立支援協議会も、今年度を終えると5年目に入ります。そんな中で、今回は、はじめての試みとして広報紙を出そうと昨年末に各部会から委員が選出されました。そんな私たち編集委員としては、どんな事を情報として出せば良いのか？など、さまざまな立場でいろいろと意見を言い合いながら、気付けばあっという間の発行となりました。発行にあたって、私たちは、区民の代表として、大田区地域自立支援協議会に参加していますが、私たち自身も1人の区民であることを忘れずに、分かりやすい広報紙にしたいと思い編集にあたりました。これからも親しみある広報紙を作成していきたいと思います。皆様、宜しくお願い致します。

編集委員 一同